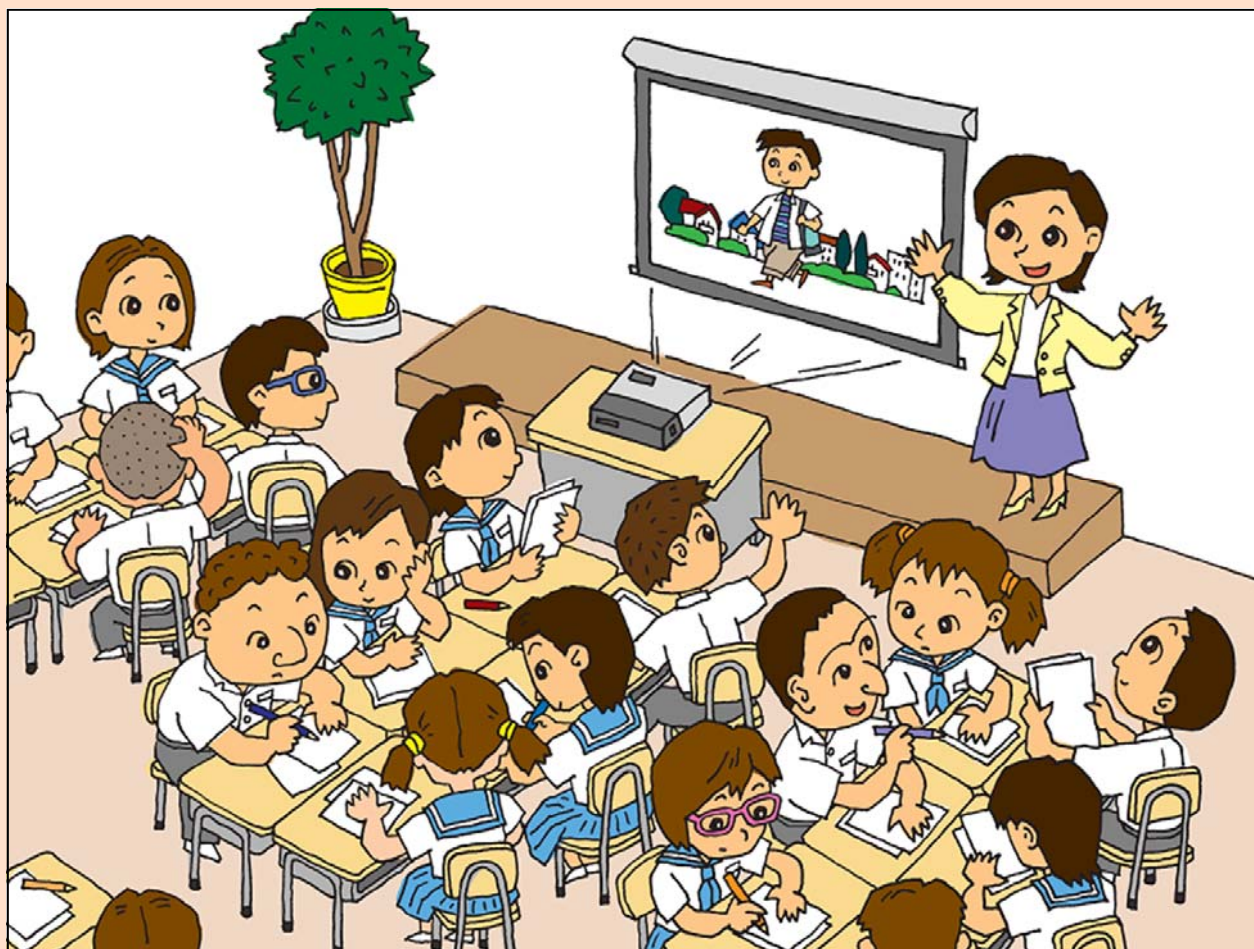




津波防災ワークショップ 解説書 (資料編)

平成30年3月

ふりかえり資料

次ページ以降の資料は、津波防災への理解をさらに深めるのに効果的な事項をまとめたものです。

ワークショップ後半の解説の中で、参加者の理解度に合わせて、適宜、資料を追加してください。

ふりかえり資料は、理解をさらに深めるのに効果的な事項をまとめました。必要に応じて資料の追加や取りまとめの参考にしてください。

また、詳しい知識を知りたい場合には、資料編の参考資料もご覧ください。



これは、平成23年の東日本大震災のとき、釜石市の小中学生が津波から避難した実話をもとに作られたものです。

「釜石の奇跡」として良く知られているお話です。

釜石の子どもたちは、どのようにして津波からにげることができたのか見てみましょう。

この動画は、5分程度で終わります。時間があれば、ふりかえりの学習のまとめ時に視聴いただくことで「自分自身・家族・大切な人の命を津波から守るため」に、何ができるかが理解が深まります。

後日、全体のふりかえりのまとめとして帰りの会などの短時間でも活用いただけます。

——津波防災啓発ビデオ——

この内容は気象庁ホームページにある津波防災啓発ビデオ「津波からにげる」で見ることができます。



詳しくはWebで !!

津波からにげる

検索



津波警報とは

津波が来るおそれがあるとき、地震が起こってから3分以内に津波警報が発表されます！

津波警報の種類

種類	予想される津波の高さ	行動
大津波警報	「5m」「10m」「10m超」	高台に避難
津波警報	「3m」	
津波注意報	「1m」	海岸から退避

大きな津波は、何度も繰り返しやってくる！

↓

津波警報が解除されるまで避難をやめない！

■留意点

気象庁が発表する津波警報はどのような種類があるかを説明する資料です。

発表される情報の種類に応じた避難行動をとる必要があります。

- ・気象庁が発表する津波警報について説明します。
- ・大きな地震が起こって津波が来るおそれがあるとき、気象庁は、地震が起こってから3分以内に津波警報を発表して、みなさんに避難を呼びかけます。
- ・この津波警報。じつは3種類あります。
- ・大津波警報、津波警報、津波注意報の3種類です。
- ・津波注意報が発表されたら、海岸にいる人は、海から離れなければなりません。
- ・津波警報や大津波警報が発表されたら、今日のように、皆さんが住んでいる町の中まで津波がやってきますので、いち早く、高い所に避難しなければなりません。
- ・また、大きな津波は、何度も何度も繰り返しやってきますので、津波警報が解除されるまでは、避難を止めず、高い所を目指して避難を続けてください。



■ 留意点

このスライドから、地域の防災についての学習へと発展することができます。

- ・いきなり津波から逃げろと言われても、知らない街ではどのように逃げれば良いのかわかりません。
- ・いつもは気付かないかも知れませんが、海に近いところでは、津波から逃げるためのヒントになる目印があったりします。
- ・高台への道や、背の高い頑丈なビルへの道を教えてくれる看板や、今いる場所が、海面から何mの高さなのかを教えてくれる看板があります。
- ・みなさんが住んでいる街にも、あると思いますので、海に近い所に行くときには、探してみてください。

[Enter]

―― 進行のポイント ――

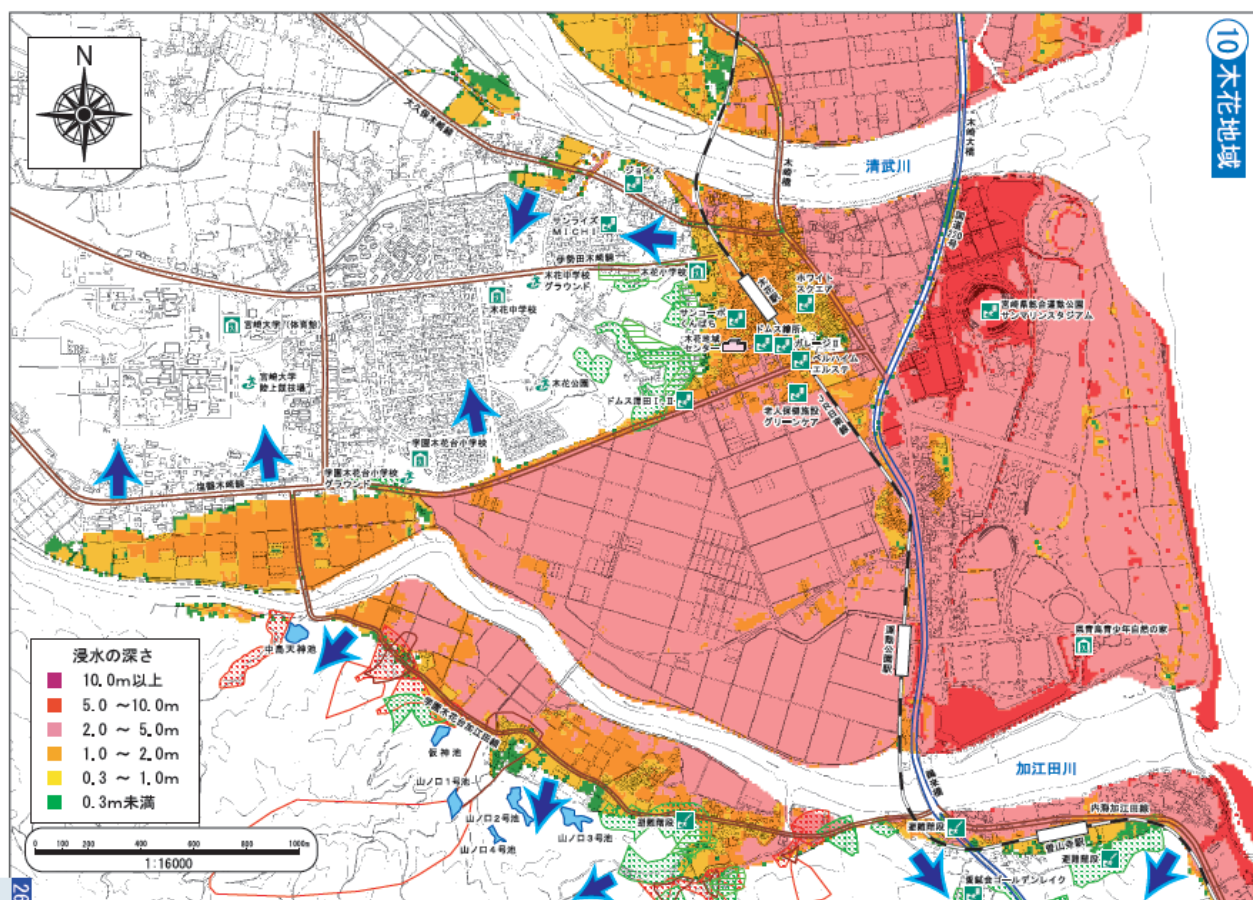
- ・防災のマークは、みんなの命を守るためのマークであることを意識してもらう。
- ・マークに気づくためには、意識して見てもらうことが大切です。
- ・「地域にある防災マーク」を探して地図に貼ったり、ハザードマップを参考にオリジナルの防災マップ作りなどの展開が可能です。

参考資料

詳しい知識を知りたい場合にご活用ください

ハザードマップ（防災マップ、被害予測図）

ハザードマップは、自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図です。風水害・地震・津波など各種災害に応じて作成されていて、津波ハザードマップについては、南海トラフの巨大地震などで津波の大きい被害が想定されている地域を中心に、市町村が整備しています。



宮崎市津波ハザードマップより

ただし、あくまで想定した場合のことが書かれているのであって、現実にはまったく同じ災害にはなりませんので、注意が必要です。

自分の町のハザードマップは、以下のページで見ることができます。

国土交通省ハザードマップポータルサイト

<http://disaportal.gsi.go.jp/>

■ 地震に対する心得

地震が発生したら

- 地震発生直後は、わが身の安全確保を最優先します。



- 激しい揺れは1～2分続きます。あわてて外に飛び出したりしてはいけません。落ち着いた行動をとりましょう。
- 海岸にいるときに大きなゆれや長い時間ゆっくりしたゆれを感じたときは、津波の恐れがありますので直ちに高台に避難しましょう。
- 火災は被害を大きくします。火を使っている場合は極力火を消しましょう。但し、危険が伴いますので無理はしないようにしましょう。



- 戸を開けて出口を確保しましょう。

地震の揺れが収まったら

- 火の元を確認しましょう。
- 津波の浸水が予想される地域や山・がけ崩れの危険がある地域に住んでいる人は、すぐに安全な場所に避難しましょう。
- テレビやラジオで気象台等が発表する津波予報や地震・津波に関する情報を入手しましょう。
- 車での避難は、渋滞に見舞われ防災活動や避難の妨げになる恐れがありますので、持ち物は最小限にして徒歩で避難しましょう。



- 大地震の後には余震がしばらく続く場合がありますので余震に注意しましょう。
- 災害時には、未確認の情報がデマとなり混乱を招く場合がありますので、正しい情報を入手して行動するようにしましょう。
- 地震は、突然襲ってきます。常日頃から避難方法・場所や医療機関などを確認しておきましょう。また、携帯ラジオ、懐中電灯などの防災用品を普段から点検しておきましょう。

■ 津波に対する心得

- 強い揺れ(震度4程度)を感じたとき又は弱い揺れでも長い時間ゆっくりした地震を感じたときは、直ちに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。
- 地震を感じなくても、津波警報が発表されたときは、直ちに海岸から離れ、安全な場所に避難しましょう。
- 津波注意報が発表されたら、海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。
- 正しい情報をラジオ、テレビ、防災無線などで入手しましょう。
- 津波は繰り返し襲ってくるので、警報、注意報が解除されるまで海岸・河川に近づかないようにしましょう。



■ 日ごろからの心得

- いざというときに備えて、非常時に必要なものをそろえておくようにしましょう



- 揺れによって大きな家具などが人の上に倒れてくると大変危険です。地震がおきても倒れてこないように固定しましょう



- 避難する際は、地域ごとの決まりに従って避難するようにしてください
- 学校などの避難要領を家族で確認するようにしましょう
- 避難所の場所を確認し、自宅から避難所までの安全な経路を把握できるようにしましょう



津波防災ワークショップ 解説書 (資料編)

福岡管区气象台 平成29年3月 発行
平成30年3月 改訂

問い合わせ先
福岡管区气象台 防災調査課
〒810-0052 福岡市中央区大濠1丁目2-36
電話 092-725-3614